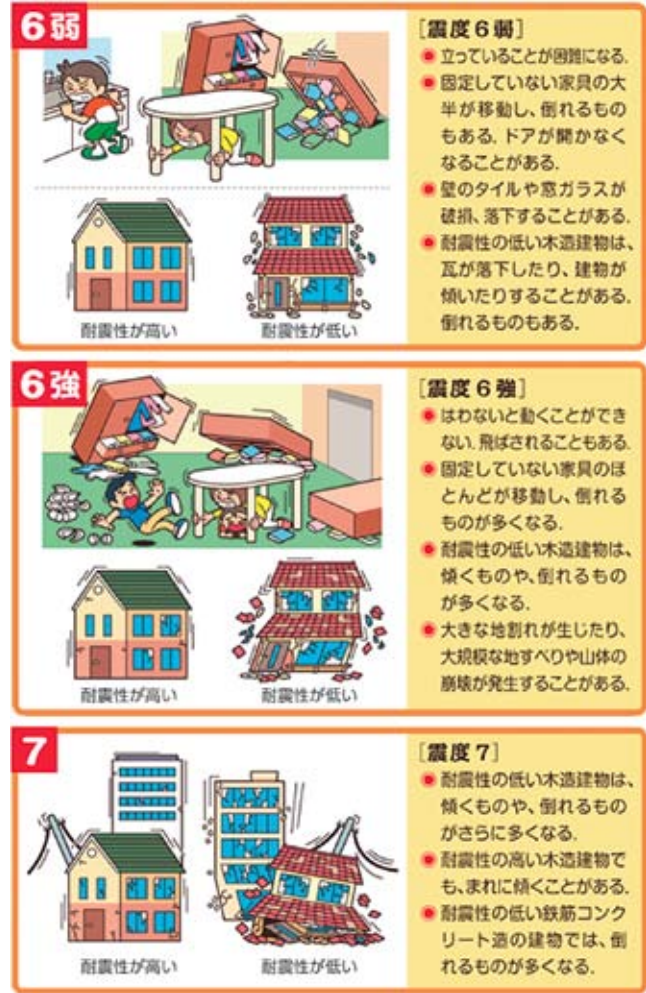


震度とゆれの状況



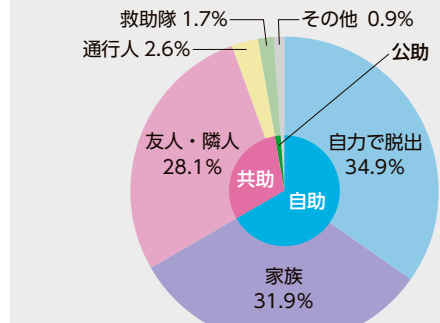
気象庁ホームページより

土岐市の地震被害想定（発生時刻を冬の午前5時と想定）

地震名	震度	死者	負傷者数	建物全壊
1. 南海トラフの巨大地震	6弱	25人	625人	1396棟
2. 屏風山・恵那山及び猿投山断層帯地震	6強	328人	2300人	6495棟

出典：1 岐阜県南海トラフの巨大地震等被害調査結果について 岐阜県（平成25年）
2 内陸直下型地震に係る震度分布解析・被害想定調査 岐阜県（平成31年）

阪神・淡路大震災における生き埋めや閉じ込められた際の救助主体など



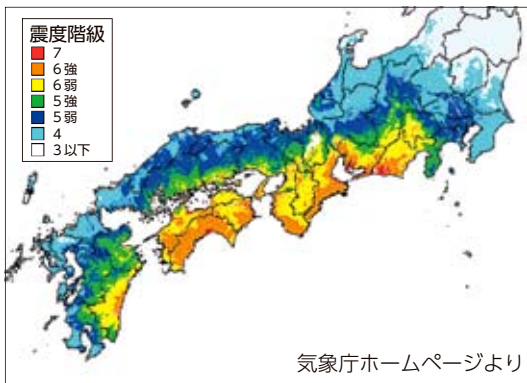
「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」
（平成8年11月日本火災学会）より作成

まずは、みなさん自身が「自分の身は自分で守る」を実践するために今からできることを行い、災害時に、ケガなどをせず、高齢者や障がい者など地域の人の力になれるといいですね。

南海トラフの巨大地震

南海トラフ巨大地震は、本市において**最大震度6弱**と予測されています。南海トラフで発生した過去1000年の地震の履歴を見ると、地震は約100～200年の間隔で繰り返し発生しています。1361年正平（康安）地震以降は、約90年～150年の間隔で発生しています。1946年の昭和地震から約75年が経過した現在、南海トラフの巨大地震が発生するリスクは、ますます高まっています。

南海トラフ巨大地震の震度分布



阪神・淡路大震災や熊本地震は、活断層の活動による内陸型地震です。市内及び周辺にも内陸型地震を引き起こす可能性のある活断層が存在します。中でも、その一部が土岐市の南部に位置する「屏風山・恵那山及び猿投山断層帯」による地震は、本市において最大震度6強と予測され、最も被害が大きいと予測されています。

内陸型地震

自助の大切さ

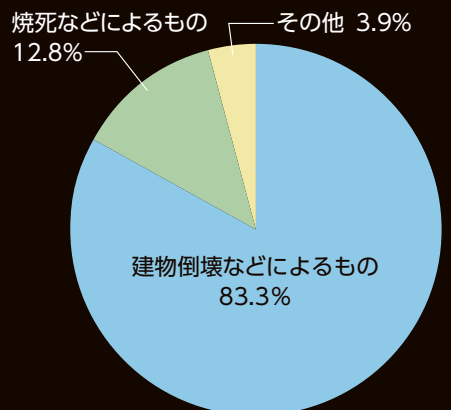
左のグラフのとおり、消防機関などが救出、救助、消火活動を行う「公助」は、地震直後にみなさん一人一人に対する初期の対応ができず、「公助」だけの対応ではほとんど無力です。地震直後の災害から身を守るためには、自ら守る「自助」が7割、近隣の人々が助け合う「共助」が2割、「公助」は1割といわれています。しかし、左のグラフからも公助は1割にも満たなかったのが現実です。

まずは、みなさん自身が「自分の身は自分で守る」を実践するために今からできることを行い、災害時に、ケガなどをせず、高齢者や障がい者など地域の人の力になれるといいですね。

土岐市で起こりうる地震



阪神・淡路大震災で亡くなった人の原因



「神戸市内における検死統計」(兵庫県監察医 平成7年)より作成

問 危機管理室（内線511）

個人住宅の耐震化や家具などの転倒防止、水や食料の家庭での備蓄などは、今からでも取り組むことができる「自助」です。今回は、自助の中でも命に関わる、住宅の耐震化や家具などの転倒防止について考えてみます。

地震 震などの被害を最小限に抑えるためには、自助・共助・公助それぞれが役割を果たすことが大切です。「自助」とは、自分の身や家族は自分で守る、「共助」とは、身近な人たちがお互いに助け合う、「公助」とは、国や県、市などの行政機関による救助・援助です。災害発生時だけでなく、日ごろの対策や、復旧・復興対策においても、それぞれの役割を考えておく必要があります。

自身でできる地震対策

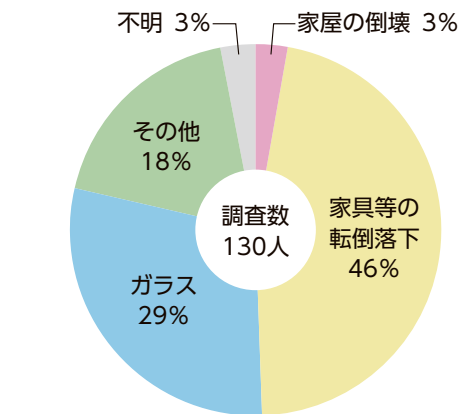
今からできる自助

① 家具などの配置・転倒防止

阪神・淡路大震災では、住宅の全半壊を免れたにもかかわらず、部屋で家具や冷蔵庫などが転倒し、部屋全体に散乱したというケースが多くみられました。

建物が無事でも、家具などが転倒し、その下敷きになってケガをしたり、最悪の場合、亡くなられた方もみえます。また、家具だけではなく、その中身までが室内に散乱したため避難に時間がかかり、火災により亡くなった方もみえます。つまり、家具などの配置を考えたり、固定をしておけば被害を縮小することができたのです。

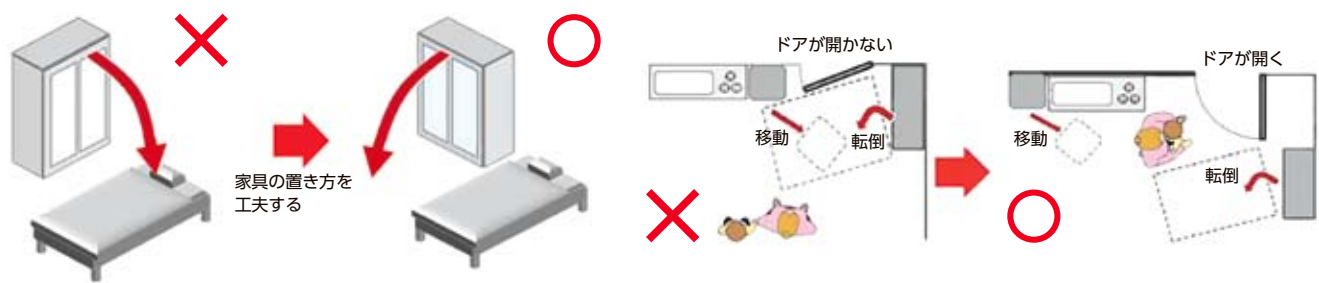
建物の中での被害によるけがの原因



日本建築学会「阪神淡路大震災 住宅内部被害調査報告書」より

家具の配置にひと工夫

家具の転倒防止も大切ですが、家具の配置を見直すことも、被害を防ぐ大きなポイントです。



「寝る場所」「座る場所」にはなるべく家具を置かないようにしましょう。置く場合には背の低い家具にするか、家具の置き方を工夫します。

避難通路をふさがない配置にします。

地震動に対する対策器具の効果

転倒防止器具は、震度6強の揺れを再現した実験で、その効果を測定しました。

使用条件	器具の効果				
	小				大
単独使用	ストッパー式 マット式	ポール式	L型金具 (スライド式) ベルト式 チェーン式	L型金具 (上向き取付け) プレート式	L型金具 (下向き取付け)
	家具、壁面や器具に十分な強度が必要				
組合せ使用	家具と天井に十分な強度が必要			ポール式 + マット式	ポール式 + ストッパー式

Point

○家具をL型金具などで壁に直接固定する方法が最も効果が高い。

○ポール式を使用する場合は、ストッパー式や粘着マット式との併用で効果が高くなる。

○壁や天井に強度がない場合は、当て板などで補強すること。

東京消防庁「家具類の転倒・落下・移送防止対策ハンドブック」より作成

② 住宅の耐震化

昭和56年6月1日から新しい建築基準法が施行され、新耐震基準が導入されたことにより、これ以降に着工された建物は地震に対する安全性が増しました。平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、旧基準の建物が多かったため、倒壊による圧死で多くの尊い命が失われました。一方、平成23年に発生した東日本大震災では、新基準の建物が増え、津波以外での建物の倒壊はあまり見られず、建物の地震対策が有効であったと考えられます。

住宅耐震化の支援制度

木造住宅耐震診断

住宅の地震に対する強さと、耐震性を満たすための工事を行った場合にかかるおおよその金額がわかります。

対象となる建物

昭和56年5月31日以前に着工した在来軸組構法、伝統的構法または枠組壁工法による一戸建て木造住宅で、床面積の1/2以上が居住用であることなど。

木造住宅耐震補強工事

住宅の壁を地震に強い板や筋交いなどで補強します。

対象となる事業

耐震診断の結果が基準未達であった木造住宅を補強する工事で、県木造住宅耐震相談士が設計および工事監理を行う耐震補強工事であることなど。

自宅での暮らしに安全・安心を

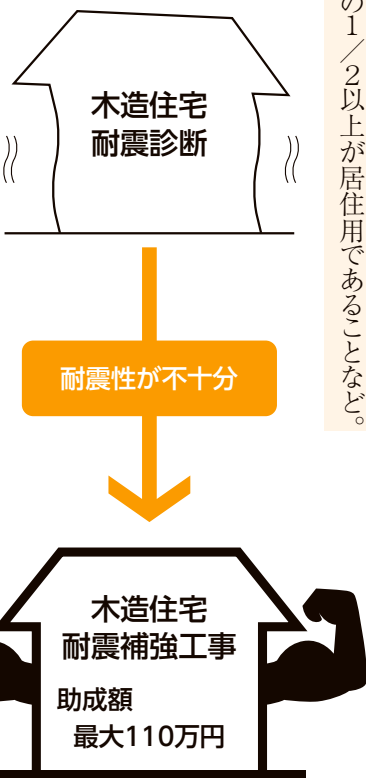
現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以前に比べて自宅で過ごす時間が増えているのではないのでしょうか？自宅で有意義に過ごすためのグッズや、リモートワークに必要な機器が人気になっているようですが、ぜひ自宅の安全性にも目を向けていただきたいです。例えば、耐震補強工事や家具の転倒防止対策を行うことによって、地震が起こった際の被害が軽減でき、継続して住み続けることができます。

もし、自宅が被災して住めなくなり、避難所生活を余儀なくされた時、プライバシーが保たれない、新型コロナウイルス感染の心配など、不自由な生活になります。

木造住宅の耐震補強工事を行うことで、工事費の最大9割が市から補助されます。このような時だからこそ、自宅の安全性について考えてみてはいかがでしょうか？



都市計画課建築係 主任主査 川口 裕樹



問 都市計画課（内線541）

家庭での備蓄

南海トラフの巨大地震などの大規模な地震が発生した場合、被害が広範囲に及ぶ（P3の地図を参照）ため、食料などの支援物資は、すぐには届かないことが想定されます。各家庭では、地震発災後、最低でも7日間生活できる分の備蓄を心がけましょう。

備蓄品チェックリスト

□飲料水 1人1日3リットルが目安です。

□食料品

レトルト食品、アルファ化米、インスタントラーメン、缶詰、お菓子、バランス栄養食品など ※乳児がいる家庭は、粉ミルク、離乳食

□衛生用品

ティッシュペーパー、ウェットティッシュ、救急箱、マスク、生理用品・携帯用トイレ、体温計、除菌スプレーなど ※乳児がいる家庭は、紙おむつ、お尻ふき

□生活用品

マッチ、ろうそく、カセットコンロ、給水用ポリタンク、懐中電灯、乾電池、軍手、ゴミ袋